平成４年度厚生省心身障害研究
「母子感染防止に関する研究」

ＨＴＬＶ－Ｉ母子感染の長期追跡調査および保健指導に関する研究
（分担研究：ＨＴＬＶ－Ｉ母子感染の追跡調査）

木下研一郎・伊藤　瑞子・伊藤新一郎・田島　和雄

要約：数年来、ＨＴＬＶ－Ｉ母子感染予防対策を実施している長崎県対馬において母乳栄養児と人工栄養児のＨＴＬＶ－Ｉ感染率の差をプロスペクティブに追跡調査した。その結果、３歳時の母乳哺育児の感染率は5人/36人＝13.5%であったのに対し、人工栄養児では2人/63人＝3.2%にとどまり、両群の間にはX^2検定で有意の差が認められた（$P<0.05$）。

見出し語：ＨＴＬＶ－Ｉ，母子感染，予防対策

研究方法：長崎県対馬において昭和63年からＨＴＬＶ－Ｉ母子感染予防対策を実施し、キャリア妊婦には母子感染の危険性のあることを説明し、人工栄養による養育を推奨してきた。その成果を対象児が３歳になった時点で人工栄養児と母乳栄養児に分けてＨＴＬＶ－Ｉ感染率の差を比較した。同時に母乳期間と感染率の間に関係があるか否かも検討した。

結果：対馬での妊婦のＨＴＬＶ－Ｉ感染率は220人/3307人＝ 6.6%であった。このなかでキャリア妊婦の出生児を追跡調査し、人工栄養児の感染率は2人/63人＝ 3.2%、母乳栄養児のそれは 5人／36人＝13.5%であった。両者の間には統計学的に有意の差が認められた($p<0.05$)。また、母乳栄養児について授乳期間と感染率を比較すると授乳期間６ヵ月以内は0人/18人＝ 0%であったのに対し、６ヵ月以上では5人/18人＝27.7%と高い感染が認められた($p<0.05$)。

考察：今回のプロスペクティブな追跡調査で母乳によるＨＴＬＶ－Ｉの母子感染が起こることが明らかとなったが低率ではあるが人工栄養でも母子感染が起こることが証明された。このことは今後の保健指導の際に参考にしていくべきデータと考えられた。また、短期母乳群（６ケ月以内）では１人も感染児がいなかったことは短期母乳が許容される可能性を示唆するものであり、今後さらに例数を増して確認する必要がある。

国立長崎中央病院
対馬いづはら病院小児科
愛知がんセンター

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:数年来、HTLV-Ⅰ母子感染予防対策を実施している長崎県対馬において母乳栄養児と人工栄養児の HTLV-Ⅰ感染率の差をプロスペクティブに追跡調査した。その結果、3 歳時の母乳哺育児の感染率は 5 人/36 人=13.5%であったのに対し、人工栄養児では 2 人/63 人=3.2%にとどまり、両群の間には X2 検定で有意の差が認められた(P<0.05)。